

わらびて



復興発掘調査展 in 洋野町

11月12日(土)から20日(日)まで、洋野町民文化会館で東日本大震災からの復興事業に伴う町内21遺跡の発掘成果を展示しました。

洋野町では縄文時代早期や前期の遺跡が多く、この時期に特徴的な尖底土器や背の高い円筒式土器、配石遺構などが注目されました。

町内外からたくさんの方が訪れ、「三内丸山などに行かなければ見られないと思っていたものが、地元にあっぴょりしました」「町内にこれほどの遺跡や遺物があるとは驚きました」などの感想が寄せられました。(調査課)

主な内容

- ◆ 令和4年度の発掘調査成果
埋蔵文化財センター・・・2,3P
- ◆ 注目された遺跡・・・4,5P

シリーズ

- ◆ 東日本大震災関連復興調査
から見えた三陸の歴史Part3
(沿岸北部)・・・6,7P
- ◆ 令和4年度イベント報告・・・8P

【所報名について】「わらびて」は蕨手刀(わらびてとう)に由来しています。蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨(さわらび)の芽を巻いた状態に似ていることからこう呼ばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

令和4年度の発掘調査成果

令和4年度の発掘調査は、最終的に9遺跡、面積にして72,041㎡を対象に実施しました。当初の予定よりも、面積が1割強減少しています。調査地は県央から県南部にかけての6遺跡、沿岸部の3遺跡でしたが、それぞれの遺跡から多くの成果を上げることができました。

旧石器時代

北上市岡田遺跡から、^{せきじん}石刃を含む石器の集中区が1か所確認されました。^{はくへん}剥片を主体とする出土点数は、およそ100点を数えます。当センターとしては、久方ぶりの旧石器時代の調査となりました。

縄文時代

釜石市太田林遺跡では、^{おお たばやし}縄文時代早期中葉から前期末葉にかけての^{けつじょう}竪穴住居が20棟以上も重複して見つかりました。出土遺物では、^{なかたい}玦状耳飾りと呼ばれる石製品とその未成品が出土し、製作工房を兼ねる住居も存在したと考えられます。この他、野田村中平遺跡では早～前期の竪穴住居群が、洋野町サンニヤⅢ遺跡と北上



並ぶ縄文時代の落とし穴（岡田遺跡）

市岡田遺跡では、狩猟用と思われる溝状の落とし穴が確認されました。特に、岡田遺跡からの検出数は300基を超え、複数の落とし穴が配列される事例も認められました。



複雑に重複する住居群（太田林遺跡）

弥生時代

花巻市天ヶ沢遺跡からは、県内でも出土例が少ない弥生時代中期を中心とする土器群が、埋没した沢跡からまとまって出土しました。この上層には、平安時代の遺物包含層も形成されていて、この周辺に二つの時代の集落が広がっていた可能性があります。



弥生土器の出土状況（天ヶ沢遺跡）

平安時代

平安時代の遺跡は、ここ数年調査が行われている奥州市中林下遺跡、金ヶ崎町の国指定史跡「鳥海柵跡」の隣接箇所である西根遺跡、前述の岡田遺跡、奥州市境・山下遺跡、県指定史跡「野田堅穴住居跡群」の北東に隣接する中平遺跡の5遺跡が該当します。

飾りが出土しました。これは、当時の役人が身に着ける貴重品であることから、この地域に相応の有力者が存在したことが推測されます。さらに、東海産の灰釉陶器が見つかっており、県北沿岸域における平安時代の様相に関し、新たな資料が加えられました。

中林下遺跡は、9～10世紀代の掘立柱建物が主体となる遺跡ですが、今回は新たに12世紀後半の掘立柱建物と土坑が確認されました。この周辺に平泉藤原氏に関連する居館等があった可能性があります。中平遺跡からは、9世紀後半を主体とする堅穴住居44棟が確認され、このうちの1棟からは、石帯と呼ばれる腰帯の

この2遺跡のほか、岡田遺跡では15棟、境・山下遺跡からは1棟の堅穴住居が確認されています。

中・近世

前述した中林下遺跡からは、16世紀後半以降の掘立柱建物や土坑・溝跡のほか、陶磁器等の遺物が出土しました。花巻市滝大神Ⅰ遺跡からは、近世民家と思われる建物跡1棟が検出されていますが、当該期の遺構・遺物は、総じて少ない状況です。



堅穴住居の作業風景（境・山下遺跡）

その他

今年度発掘調査を実施した9遺跡のうち、4遺跡が次年度も継続調査となる予定となっております、更なる成果が期待されます。

(調査課)

令和4年度 発掘調査遺跡一覧

No.	調査遺跡名	市町村	主な時代	調査面積 (m ²)	事業名
1	中林下遺跡	奥州市	平安時代・中世	2,756	一般国道4号水沢東バイパス
2	西根遺跡	金ヶ崎町	平安時代	200	一般国道4号金ヶ崎拡幅
3	サンニヤⅢ遺跡	洋野町	縄文時代	5,242	三陸沿岸道路(侍浜～階上)洋野種市IC
4	天ヶ沢遺跡	花巻市	縄文・弥生時代	3,000	経営体育成基盤整備事業(砂子地区)
5	滝大神Ⅰ遺跡	花巻市	縄文時代・近世	782	経営体育成基盤整備事業(砂子地区)
6	境・山下遺跡	奥州市	平安時代	1,234	主要地方道一関北上線山下地区地域連携道路整備事業
7	中平遺跡	野田村	縄文時代・古代	8,260	野田小学校建設事業
8	太田林遺跡	釜石市	縄文・弥生時代	567	橋野地区消防屯所建設事業
9	岡田遺跡	北上市	縄文時代・古代	50,000	北上北部産業業務団地造成事業
合計8件9遺跡				72,041	

注目された遺跡

遠野市

なべくらじょうあと 「鍋倉城跡」が国史跡に

【 戦国時代～明治維新 】

鍋倉城跡は、現在の JR 遠野駅前から伸びる駅前通りを南に 500 m ほど直進した突当りにあります。戦国時代末期に遠野地方を治めた阿曾沼広郷あそぬまひろさとが築き、阿曾沼氏が失脚した後、江戸時代には盛岡藩の筆頭家老を代々務めた遠野南部氏の拠点として、明治維新まで機能しました。令和 4 年 12 月 17 日に国の文化審議会はこの鍋倉城跡を国の史跡として指定するよう文部科学大臣に答申し、官報告示を経て正式に指定されます。

指定のポイントは 3 つあります。①東北地方に築かれた山城として本格的で規模が大きいこと、②戦国時代から明治維新までほとんど改変されることなく使われ続けていた稀な山城であること、③現在もこうした城の姿が良好に残っていることです。

鍋倉城は標高 344 m の鍋倉山一帯に築かれ、規模は南北約 900 m × 東西約 700 m 総面積約 340,000 m²に及びます。城の麓ふもとを東から北に来内川が流れ、それが西を流れる猿ヶ石川に合流し、三方を川に囲まれる天然の要害です。頂上には本丸と呼ばれる平場くるわ(曲輪)が設けられ、そ



鍋倉城跡 (西より)

の南側には二の丸、東側には三の丸と呼ばれる曲輪が造り出されています。これらの曲輪は土塁きりぎしや切岸(人工的に作り出された急斜面)によって、外敵の侵入を防ぐ造りになっています。この他にも、複数の曲輪が本丸を囲んでおり、本丸には殿様の屋敷が、その他の曲輪には重臣たちの屋敷がありました。

阿曾沼氏が城を築いた当初は、城の主要な入口を西に設けており、主郭の入口は規模の大きな土塁、空堀、門によって厳重に防御されていましたが、遠野南部氏の時代には北に移しています。その他、わずかに堀切(尾根を堀状に切断したもの)たてぼりや堅堀(斜面に対し垂直に設けられた堀)が追加されましたが、大きな変更が加えられず、明治維新まで機能し続けました。明治 2 年に本丸屋敷をはじめ建物は全て破壊され、その後農地などに利用されていましたが、開発を受けることなく、現在では鍋倉公園として市民の憩いの場となり、残りの良い戦国山城の遺構を見ることができます。今後は保護に関する計画を策定し、永久的な保存と活用を図っていきます。

(遠野市教育委員会 黒田 篤史)



発掘された鍋倉城 本丸屋敷跡 (上空より)

二戸市

こま やき ば
駒焼場遺跡

【平安時代：10世紀】

駒焼場遺跡は、二戸市役所から北へ約8kmに位置しています。東側には馬淵川まべちがわが蛇行して流れており、川によって形成された沖積段丘先ちゅうせきだんきゅうに立地しています。

昭和56～62年度に国道4号線の建設工事に伴い発掘調査が行われ、大溝で囲まれた10世紀後半～11世紀の防御性集落であることが分かりました。

令和3・4年度には二戸市で発掘調査を行い、10世紀後半の竪穴住居跡が5棟ほど確認されました。規模は4m程度で、カマドは南ないし東角に寄っていました。竪穴住居跡の重複はなく、主軸が一定であることから、ほぼ同時期の遺構であると考えられます。

遺物の出土量は限られましたが、土師器・須恵器すきさき・完形の鋤先てつぞくが出土しました。県の発掘調査では、鉄鏃てつぞくや鉄製紡錘車ぼうすいしや、鎌などが出土して

いることから、集落内での鉄製品の使用・生産が想定されます。

岩手県教育委員会では今年度から高地性集落しつかいの悉皆調査を進めており、この駒焼場遺跡もその1つに数えられていることから、今後遺跡の性格について再検討する必要があると思われます。

(二戸市教育委員会 鈴木 裕一郎)



確認された竪穴住居跡 (令和3年度)

奥州市

かみだて
上館遺跡

【平安時代末：12世紀】

上館遺跡は、奥州市水沢佐倉河字八ツ口地内に位置し、国指定史跡胆沢城跡いさわじょうあとの城外北西側に所在する中世城館跡です。発掘調査では、大規模な堀跡1条、12世紀後半のかわらけ焼成窯跡1基、中世後期の柱穴状ピット群90基以上と墓跡1基が検出されました。

堀跡は調査区の南側に位置し、堀幅約9m、深さ約1.4～1.6mを測ります。堀跡の埋土は大別して2層に分けられ、上層が16世紀以降の整地層、下層が12世紀後半以降の埋土と推察されます。下層からは12世紀後半のロクロかわらけ、てづくねかわらけ、貿易陶磁器(青磁・白磁・青白磁)、国産陶器(渥美あつみ・常滑製品とこなめ)、木製品(木碗片など)が出土しています。

かわらけ焼成窯は堀跡の北側に位置し、平面が不整形で幅1.1×0.9m、深さ0.2mを測り

ます。埋土からは、てづくねかわらけや焼けた粘土塊が出土しています。

12世紀後半のかわらけ・貿易陶磁器が集中して出土したことや、大規模な堀跡の検出から推測すると、奥州藤原氏関連の居館などが存在していた可能性があります。

(奥州市埋蔵文化財調査センター 遠藤 栄一)



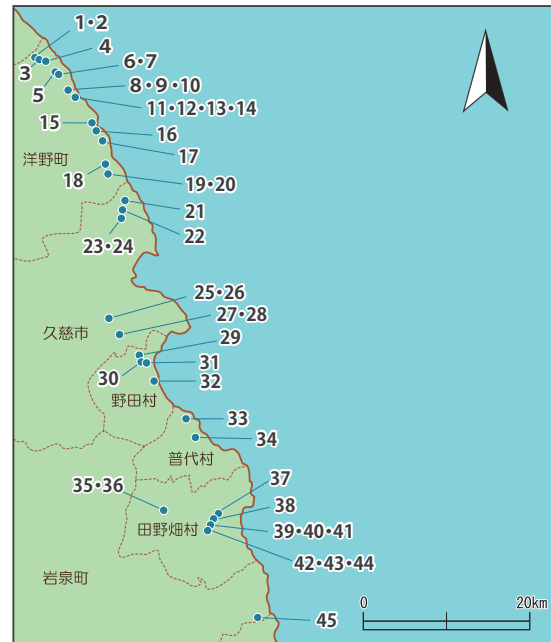
かわらけ焼成窯 (南から)

東日本大震災関連復興調査から見えた

三陸の歴史 Part3 (沿岸北部)

今回は、復興調査の成果を地域別にふりかえる3回シリーズの第3回として、沿岸北部(洋野町～岩泉町)を対象にご紹介します。平成25年～令和2年にかけて、震災復興事業に関連し調査された本地域の遺跡数は45か所、調査面積は約27万6千㎡に及びます。

市町村	No.	遺跡名	調査年度	調査原因	面積 (㎡)	報告書 数集
洋野町	1	田ノ端Ⅱ	2017. 18	三陸沿岸道路	3, 000	715集
	2	伝吉Ⅱ	2019	三陸沿岸道路	2, 490	721集
	3	北ノ沢Ⅰ	2016. 17	三陸沿岸道路	1, 200	725集
	4	西平内Ⅰ	2014. 15	三陸沿岸道路	5, 500	673集
	5	南川尻	2014	三陸沿岸道路	6, 340	647集
	6	サンニヤⅢ	2016. 17. 18	三陸沿岸道路	33, 200	714集
	7	サンニヤⅠ	2015. 16	三陸沿岸道路	6, 200	661・687集
	8	北鹿糠	2015. 16	三陸沿岸道路	8, 900	686集
	9	荒津内	2017	三陸沿岸道路	10, 770	701集
	10	板橋Ⅱ	2018. 19	三陸沿岸道路	12, 002	729集
	11	南鹿糠Ⅰ	2015. 17	三陸沿岸道路	6, 520	697集
	12	鹿糠浜Ⅱ	2017	三陸沿岸道路	8, 900	702集
	13	鹿糠浜Ⅰ	2017. 18	三陸沿岸道路	7, 800	727集
	14	北玉川	2017. 18. 19	三陸沿岸道路	7, 759	728集
	15	宿戸	2016. 17. 18	三陸沿岸道路	27, 600	726集
	16	小田ノ沢	2016	三陸沿岸道路	3, 900	699集
	17	南八木	2017	三陸沿岸道路	700	703集
	18	上のマッカ	2015. 17	三陸沿岸道路	4, 150	698集
	19	下向	2014	三陸沿岸道路	2, 400	647集
	20	中野城内	2017	三陸沿岸道路	700	692集
久慈市	21	外屋敷XIX	2013	三陸沿岸道路	5, 640	646集
	22	木戸場	2017. 2	三陸沿岸道路	3, 480	692・733集
	23	北野XIII	2013	三陸沿岸道路	3, 700	630集
	24	北野XII	2017	三陸沿岸道路	1, 120	692集
	25	芦ヶ沢Ⅰ	2016	三陸沿岸道路	7, 000	685集
	26	芦ヶ沢Ⅱ	2016	三陸沿岸道路	4, 250	685集
	27	宇部館	2014	三陸沿岸道路	1, 950	654集
	28	北ノ越	2014	三陸沿岸道路	7, 550	654集
野田村	29	伏津館跡	2013. 14. 17	三陸沿岸道路	15, 150	695集
	30	中平	2014. 15. 17. 18. 20	三陸沿岸道路	9, 207	710・733集
	31	上泉沢	2014. 15	三陸沿岸道路	1, 840	674集
	32	上代川	2016	三陸沿岸道路	8, 000	713集
普代村	33	長途	2016	三陸沿岸道路	2, 800	700集
	34	力持	2014. 16	三陸沿岸道路	898	694集
田野畑村	35	沼袋Ⅱ	2014	三陸沿岸道路	3, 695	647集
	36	沼袋Ⅲ	2014	三陸沿岸道路	950	647集
	37	野場Ⅰ	2012. 13	災害公営住宅・漁業集落防災機能強化	24, 543	635集
	38	和野新墾神社	2017	三陸沿岸道路	1, 000	692集
	39	菅窪長屋構Ⅱ	2014	三陸沿岸道路	1, 200	656集
	40	菅窪長屋構Ⅲ	2014	三陸沿岸道路	2, 900	656集
	41	菅窪	2013	三陸沿岸道路	1, 600	645集
	42	島越Ⅱ	2013	三陸沿岸道路	3, 100	645集
	43	島越XIV	2013	三陸沿岸道路	1, 400	645集
	44	浜岩泉Ⅲ	2013	三陸沿岸道路	2, 070	655集
岩泉町	45	小成Ⅱ	2013	三陸沿岸道路	1, 900	644集



1 縄文時代

縄文集落は、早期と前期が数多く確認されたこと、そして意外にも中期が少なく、晩期はさらに少なかったことも調査成果の一つです。また、県内で5例ほどしかない草創期の爪形文土器つめがたもんが板橋Ⅱ遺跡と鹿糠浜Ⅰ遺跡いたばしで出土しました。そして、大きな話題となった西平内Ⅰ遺跡かぬかはまの大規模な配石遺構群の発見は、本県の縄文文化史にしひらなに一石を投じる成果と評価されます。



西平内Ⅰ遺跡 配石遺構群 (洋野町)



小成Ⅱ遺跡 縄文時代竪穴住居 (岩泉町)

② 弥生時代

調査された45遺跡中22箇所で見つかり、また北玉川遺跡、^{きたたまがわ}上代川遺跡、^{かみしろかわ}浜岩泉Ⅲ遺跡などで竪穴住居が確認されました。中でも、竪穴住居が30棟見つかった上代川遺跡は、県内最大級の弥生集落と評価されます。

③ 古代

^{みなみかぬか}南鹿糠Ⅰ遺跡、^{なかつたい}鹿糠浜Ⅰ遺跡、^{かみいづみさわ}浜岩泉Ⅲ遺跡などで1～2棟の小規模な集落が見つかり、一方で中平遺跡や上泉沢遺跡の所在する野田村は沿岸北部ではほぼ唯一大規模集落が存在することがわかりました。その他に古代～中世と推定される鉄生産遺構が、^{みなみやぎ}南八木遺跡と上代川遺跡で見つかったことは特記事項の一つです。

④ 中世

中世城館は^{ふしつだてあと}伏津館跡と^{うべだてあと}宇部館跡の調査が行われました。伏津館跡は、15世紀に造営され、その後短期間で廃絶した城館です。中国製の青磁や白磁、琵琶が彫られた硯、青銅製の花瓶、



伏津館跡 琵琶が彫られた硯と水滴 (野田村)

^{と きん}鍍金された^{めぬき}目貫など高価な品々が揃い、豊かな教養と財力を持った有力者の居館だったと推定されます。

終わりにかけて

今回の復興関連調査により、三陸沿岸の調査資料は飛躍的に増加されました。地元の方々へ調査成果を公表する機会の一つとして、平成24～30年の間に、本地域だけで現地説明会・現地公開を5市町村12遺跡において13回開催し、1,206人の方の参加をいただきました。そのほかに、発掘体験や、復興発掘調査展など、地元との連携を図りながら埋蔵文化財の普及に取り組んでまいりました。復興関連調査が、地域のアイデンティティを見直す契機の一助となるなら、発掘調査冥利に尽きると思います。

(主幹兼課長補佐 星 雅之)



力持遺跡 現地説明会 (普代村)



復興展 アズビィ楽習センター (田野畑村)

◆ 令和4年度 イベントの報告 ◆

震災復興に伴う埋蔵文化財調査シンポジウムを開催 岩手県教育委員会

1月28日(土)に、「東日本大震災津波からの復興の礎『岩手県の震災復興に伴う埋蔵文化財調査シンポジウム』～埋蔵文化財調査の成果と課題～」と題し、いわて県民情報交流センター(アイーナ)を会場に、シンポジウムと復興調査に関する出土遺物の展示を行いました。

基調講演には、文化庁の近江俊秀主任調査官から『東日本大震災における復興調査とその後の震災における対応』として講演をいただきました。復興調査の報告では、岩手県や、全国からの派遣職員を代表して兵庫県、熊本県、静岡県専門職員が報告するとともに、事業者の立場から国土交通省が報告を行いました。その後、震災復興に伴う埋蔵文化財調査の成果と課題に



ついて、青森県、滋賀県、沖縄県、陸前高田市の専門職員を加えたパネルディスカッションを実施しました。

終盤には客席から、復興調査への支援に対し、あらためて感謝の気持ちを伝える発言が寄せられました。(生涯学習文化財課)

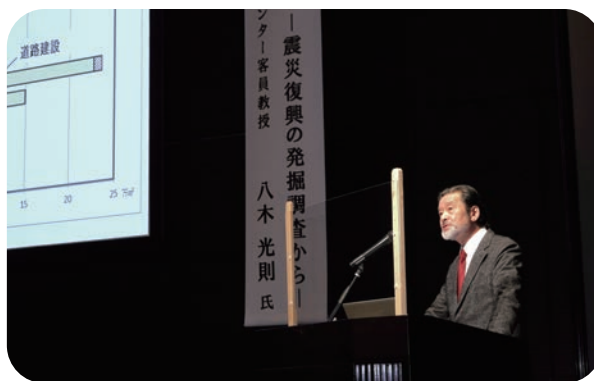
埋蔵文化財公開講座／遺跡報告会／第43回埋蔵文化財展

令和5年1月29日(日)盛岡市のいわて県民情報交流センター(アイーナ)で公開講座・遺跡報告会を行いました。

第一部の公開講座は「三陸 海と山の古代文化―震災復興の発掘調査から―」と題して、岩手大学平泉文化研究センター客員教授八木光則さんに、復興調査で明らかになった三陸沿岸の歴史、地域のアイデンティティへの関心の高まりなどについて御講演いただきました。

第二部の遺跡報告会では、埋蔵文化財センターが調査した太田林遺跡ほか3遺跡の調査成果の報告を行いました。

また、ギャラリーアイーナでは、1月27日(金)～29日(日)の3日間、埋蔵文化財展を開催しました。復興調査で得られた資料約500点を展示し、多様な縄文土器や製鉄関連の資料などが注目を集めました。(埋蔵文化財センター)



発行 岩手県立埋蔵文化財センター
編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
Tel: 019-638-9001 E-Mail: i-maibun@echna.ne.jp URL: http://www.iwate-maibun.jp/
発行日 令和5年2月28日
印刷 東京カラー印刷株式会社